

「みんなでつくる水源の森実施計画2021」 パブリックコメントの実施について

【実施結果(概要)】

- (1)意見募集期間 令和3年2月12日(金)から3月14日(日)まで(31日間)
- (2)意見提出総数 10者、17件
- (3)意見提出方法 メールフォーム (17件)

【意見の内訳】

- (1)地域 区部(7件)、多摩(8件)、都外(2件)
- (2)世代 20代(3件)、50代(9件)、60代(5件)

	御意見の要約	対応
全般		
1	水源林の管理に認知度をアップさせる方策として、都知事に視察に来てもらうなどしてマスコミで報道してもらうようにすればよいと思います。	水源地保全の重要性に対する理解を深めていただくため、「都民の理解を促進する取組」をはじめ、様々な取組を推進してまいります。
2	都民としては多摩川全体の健全化という方がより関心を持ちやすく、協力しやすいと思います。多摩川流域全体の環境改善・洪水防止などの観点で都の関係局が一体となって多摩川の魅力の向上に取り組み、水道局は水源林の管理に取り組み、としたほうが分かりやすいと思います。	多摩川の魅力を向上する取組については、それぞれの担当局で推進してまいります。水道局においては、多摩川上流域全域を見据えた森林の育成・管理に取り組むことにより、安定した河川流量の確保と小河内貯水池の保全を図ります。
3	水道局の取組を、他国にもっと積極的に紹介するべきと思います。海外の水道事業の担当者を水源林に案内するなど意義があると思います。東京の大都会以外の魅力も発信できるとと思います。	これまでも、小河内貯水池や水道水源林に海外からの研修生や視察の受入れや、国際会議などでの水源林の取組のPRを行ってきました。いただいたご意見を参考に、今後も機会を捉え、広く情報発信をしてまいります。
都民の理解を促進する取組		
4	都民の理解を促進する取組が第一に挙げられている点が特によいと思いました。水源林が、水源の維持のみならず、災害の防止、都民の癒し等多面的に役立つ点をより都民に知っていただくことが、現在の活動を維持するために特に重要と考えるからです。また、今般の実施計画で一番目に掲げること自体が、都民への訴えとなっていると思います。	水源地保全の取組を推進するためには、より多くの都民の皆様の水源地保全の重要性に対する理解が不可欠であると考えております。本計画での「都民の理解を促進する取組」を推進し、水源地保全の理解促進に取り組んでまいります。
5	水源林の特設サイトの開設も大変よい取組みだと思えます。一般の目からは、「水道」は若干お堅いイメージで、水源の森といった自然の面を強調したサイトのほうが身近に感じられ、サイトを訪れる人も多くなるのではないかと思います。サイトについて知ってもらうためには、イベント等リアルな場での訴えかけも必要と思えます。	いただいたご意見を参考に、現在のホームページに掲載している内容をより見やすく、分かりやすいものとするともに、動画等のコンテンツを充実させ、様々な方がいつでも、どこでも水源林の魅力に触れ、楽しめるサイトとしてまいります。また、SNSやイベントでの紹介など様々な手法により、水道水源林特設サイトを周知してまいります。
多摩川上流域における民有林の保全・管理		
6	民有林の積極的な購入は、水源林を直接保全することができるため、保全効果が高いと思います。重点的に取り組まれるよう望みます。	小河内貯水池への影響が特に懸念される民有林重点購入地域約2,000ヘクタールについて、平成29年度から所有者に積極的に売却を働きかけ、購入を推進しています。引き続き、重点購入地域の民有林の積極的な購入を推進してまいります。
7	集中豪雨の多発により、斜面崩壊に伴う流木の大量発生が大きな問題となっています。水源林は概ね良好に維持されているとの認識ですが、さらなる機能強化を進めていくことが必要だと思えます。また、民有林においても流木災害を最小化する視点での記述があることが望ましいと思えました。	水源林については、気候変動に適応し、流木災害を発生させないよう、森林保全作業の着実な実施により森林の持つ公益的機能を向上させてまいります。特に間伐においては、伐った木が下流に流れ出さないように配慮して横伏せするなど、丁寧な作業を行っています。民有林については、購入を進め水源林として良好な状態へ整備するとともに、購入が困難な森林の適切な保全・管理に向け関係機関との調整等を進めてまいります。

	御意見の要約	対応
多様な主体と連携した森づくり		
8	水源林寄附金の制度を初めて知りました。一口1000円からは個人レベルで参加しやすいので、もっと目につくように周知を工夫してはいかがでしょうか。	より多くの方に水源の森づくりに参加していただけるよう、いただいたご意見を参考に、SNSや水道水源林特設サイト、イベントでの紹介など様々な手法により、水源林寄附金の制度を周知してまいります。
9	外出制限が緩和されたら、中高年齢層の健康増進も兼ねた水源林ツアーを企画してはどうでしょうか。	新型コロナウイルス感染症の状況を見据えながら、いただいたご意見を参考に、社会情勢やお客さまのニーズを踏まえた水源林ツアーを実施してまいります。
10	いわゆる登山ツアー会社と連携し、ツアーで入城する人たちへの啓もうの機会を設けてはどうでしょうか。あれだけ整備されているのですから一部の山で実施されている入山料という考えもありと思います。まずは募金箱でも。	水道水源林特設サイトにガイドマップや水源地での注意事項を掲載するなど、ツアー等で入山する方への情報提供を進めてまいります。 また、水源地保全の取組に参加いただける水源林寄附金について、パンフレットを奥多摩 水と緑のふれあい館など、入山者の方が立ち寄る場所に設置するなどし、周知してまいります。
11	これまでの取り組みとして、東京都立大学、東京農工大学と国公立大学との共同研究を進めているようですが、研究成果などを踏まえ、私立大学に依頼しても良いのではないのでしょうか。	大学との共同研究については、国公立、私立に関係なく、課題に関する知見を有している大学と取り組んでまいります。
12	小学校にもICTが普及しつつあるので、「おうちで水源林ツアー」の動画を見てもらうなど、電子の資料を使うことは、学校教育の一環に組み入れやすいと思います。	いただいたご意見を参考に、小学生に水源林の大切さを伝えるため、水道教室の実施やタブレット学習に対応したデジタル教材の配信などに取り組んでまいります。
13	小学生のみならず、中・高校生も野外体験学習の一環として組み入れてはどうでしょうか。	水道局では、高校生の作業体験活動受入れなど、水源林の大切さを理解していただける取組を実施しております。今後も要望のある学校等と調整し、より深く学習できる取組を実施してまいります。
14	スギやヒノキを広葉樹に転換し、花粉と獣害を減らしてほしい。	水源林では、スギやヒノキが植栽されている人工林について、そのほとんどを天然林誘導型森林と位置付け、間伐等により生じた空間に広葉樹の自生を促すことにより天然林に近い森林へ誘導しています。また、東京都花粉症対策本部に参画し、関係局と連携した花粉症対策を推進します。 獣害に対しては、特に被害が深刻なシカ被害に対して、生息状況や被害状況の調査、侵入防止柵等の設置、地元自治体等と連携した管理捕獲などの取組を推進します。
15	シカ対策は連携をとっているが国全体として考える動きを発信していく方策はないのでしょうか。	シカは都県境をまたいで行動するので、国や周辺自治体との連携は重要であると認識しています。 引き続き、国や都道府県等が集まる会議などを通じて、連携の必要性を共有してまいります。
その他		
16	林業の活性化は水道事業の健全化にも寄与するはずですが。新設された森林環境譲与税を有効に活用し、都内の市町村で多摩産材を公共建築等で使用してもらうよう、都から積極的に働きかけることが望ましいと思います。	森林環境譲与税の活用による多摩産材の利用促進については、産業労働局が区市町村への情報提供等の働きかけを行っており、関係部署と連携し取組を進めています。いただいたご意見は、関係部署と共有し、今後の参考とさせていただきます。
17	カヌー・カヤック・ボートなど水質に負荷がかからない形で奥多摩湖面の利用を認めてほしい。	奥多摩湖(小河内貯水池)は、東京都水道局が管理する水道専用ダムであり、都民の貴重な水がめのため、水質保全の面から困難であると考えています。